



花園大学



同

会

窓

通

信



CONTENTS

大学ニュース2

「お元気ですか」6

本学関係者 書籍案内6

部活紹介7





学長ご挨拶

学長 磯田 文雄

日頃、花園大学の教育研究の充実発展のためにご支援いただいておりますことを厚くお礼申し上げます。コロナも3年目となり、with コロナの考えに沿って大学生活を取り戻しつつあります。学生の皆さんは賢くコロナとともに学んでいます。

政府は、2023年2月10日、新型コロナウイルス対策のマスクの着用について、同年3月13日から屋内外を問わず個人の判断に委ねることを決めました。学校における対応については、4月1日からマスク着用を求めないことを基本とすることになりました。4月1日までに実施される卒業式については、卒業式の教育的意義を考慮し、児童生徒等はマスクを着用せず出席することとなり、文部科学省から具体的な取り扱い方針が示されました。大学につきましては、これら児童生徒等に対する取り扱いを参考に適切に対応することとされています。今後とも、コロナウイルス感染症対策については、柔軟かつ迅速に効果的な対応を進めてまいります。

2022年10月22日(土)及び23日(日)に花園大学学園祭「京花祭」が開催されました。学生の皆さんが待ち望んでいたイベントです。学園祭実行委員会の皆さん、多くの学生さん、教職員の皆さん、警備員そして清掃担当の皆さん、花園大学の力が結集したからこそ学園祭は復活しました。もちろん、後援会や同窓会の皆さんの強力な温かいご支援が、これを可能としてくれたのは言うまでもありません。また、地域の皆さんのご理解が学園祭を豊かなものにしてくれました。私は心より嬉しく、多くの人々に感謝の意を捧げたいと思います。

本年度のテーマは、「祝150周年 地域とのつながりをこれからも」です。花園学園は戦前戦後と150年の歩み続け、本年、新たな一歩を踏み出しました。これからの50年100年がどのようなものかわかりませんが、はっきりしているのはその未来は若者たちのためにあるということです。また、若者たちに必要なのは家族や友人や地域の人々という身近な人々です。学園祭に臨んで地域の人々の声、地域とのつながりを考えるよう学生にお願いしました。

今、世界は、コロナ禍とロシアのウクライナ軍事侵攻で大きな変化の波に襲われています。私たちの全く知らない新しい世界が生まれています。この変化の中で花園大学として我々がなすべきことは、学生の教育保障です。経済の混乱の中で学生生活を送れないというようなことのないようしっかり学生を守っていきます。政府は令和6年度から修学支援制度を拡充する予定ですが、令和5年度入学生も守る必要があります。花園大学は、令和5年度入学生に対し修学支援制度を大幅に拡充しました。支援対象は一般選抜AB日程の各学科上位10位以内の者などです。支援内容は、入学金、授業料、教育充実費を最大4年間全額免除します。同窓会の皆様のご理解とご支援の下、今後とも、学生の教育保障に万全を期してまいります。

前期学位記授与式

9月30日(金)の18:00、本学教堂ホールにて、2022年度前期学位記授与式が挙行されました。

卒業生は学部生6名と大学院生1名。磯田文雄学長から一人ひとりに学位記が手渡されました。

学長式辞では「私は人を信じます。特に若者の力を信じています。皆さん、苦難を恐れず、際限のない社会の「大海」へ漕ぎ出していってください。」と述べられました。引き続き、山本清文文学部長、福富昌城社会福祉学部長が巣立つ卒業生に向けての言葉を贈られました。

式終了後、卒業生は出席の栗原正雄学園長や学長をはじめとする執行部の先生方を囲んで、記念撮影をしました。



大学摂心

後期授業が始まる前の9月15日(木)、16日(金)の2日間にわたり、大学摂心を実施しました。初日は学内の禅堂での坐禅と横田総長の法話を拝聴しました。翌日は3年ぶりに学外に出向き、大本山妙心寺の大方丈での坐禅と諸堂拝観を行いました。約30名の学生・教職員の参加があり、充実した時間を過ごすことができました。また、初日の坐禅終了後には、横田総長と摂心に参加した学生との交流会があり、学生には総長と直接話せる貴重な機会となりました。



第36回花園大学人権週間報告

2022年度の人権週間は、久しぶりにこれまで通り対面のみで開催をいたしました。

12月5日の前夜祭では映画『米軍(アメリカ)が最も恐れた男 カメジロー不屈の生涯』を上映しました。翌6日からの講演会では、映画『私のはなし 部落のはなし』の映画監督・満若勇咲さんから『私が部落問題の映画を撮った理由』。7日は京都情報大学院大学教授のウラディーミル・ミグダリスキーさんから『私はウクライナ人だー京都在住のウクライナ人からみたウクライナの現状ー』。最終日は、音楽家であり、大学講師もされている西田彩さんから『トランスジェンダー～言葉の獲得について～』のお話を伺いました。

今年度は、本学人権教育研究センターが設立されて30年、沖縄本土復帰50年、水平社設立100年など、さまざまに節目の年であり、それを記念してのラインナップにもなりました。こうして節目の年にこれまでの道のりを振り返った時、果たしてさまざまな問題は克服されてきたのかどうか、と思います。本土復帰を願った沖縄の人々の願いは届いたのか、部落差別からの解放を願った人々の思いはかなったのか、多様性という言葉が使われだして久しいが、本当に誰もが生きやすい社会となっているのか。そして、、世界から紛争・戦争がなくなる日が来るのかどうか。“人類滅亡”までのカウントダウン「世界終末時計」の残り時間が「90秒」と過去最短になったといえます。今本当に大切なことは何なのか、大きな視野で世界を見なければ取り返しのつかないことになる、と改めて気を引き締める人権週間でした。



講演者：満若 勇咲さん



講演者：西田 彩さん



講演者：ウラディーミル・ミグダリスキーさん

就職課

変化する就職活動状況に対応し、一人ひとりの学生に寄り添う進路サポートを行っています。

学生を取り巻く就職活動は、2022年度に入り新型コロナウイルス感染症対策にも変化が見られ、対面での選考が復活する中でも、依然としてオンラインでの選考も残るなど、新たな就職活動の形ができていく状況です。

就職課では、このような就職活動の変化にしっかりと対応し、さまざまな取り組みを実施しています。

2024年3月卒の学生にとって本格的な就職活動開始直前となる2月に、十分な感染予防対策のもと、就活準備講座と就職説明会を開催し、就活の流れやマナー、履歴書の書き方、求人情報の見方などの基本的な内容の講座に加え、本学と密に連携している学外のサポート機関や、各業界の企業・団体を迎え、サポート概要紹介や業界・企業研究会を対面にて開催しました。さらに、新たな企画として、オンライン企業説明会・オンライン面接への対策についても、より実践に近い状態を体験してもらうため、オンラインにて開催しました。4月以降は、個別対応をメインにサポートを進めていきます。

1・2回生についても、必修科目「学びのナビゲーション」の中で、進路サポートシステム「花☆サポ」に登録してもらい、まずは進路を考えるスタートラインとしています。

※「就職課」は、2023年4月より、「進路サポート課」に名称変更します。卒業後の長いキャリアを見据え、学生本人が納得できる進路を自分で見つけてチャレンジできるよう、学生一人ひとりに寄り添う支援を続けてまいります。



調身 調息 調心 「月一坐禅会」好評です

坐禅会に参加したくても作法等がわからなくて参加できなかった方を対象とした「初めての坐禅会」を10月19日に開催、42名の方にお越しいただきました。さらに、初めてでも気軽に「月一坐禅会」に参加していただけるよう、YouTubeチャンネルに動画を掲載しています。月末の水曜日(12月のみ第3週) 18時~19時、禅堂でこころとからだを調べませんか？



YouTubeチャンネル
「BASE花ここ」

京都学講座・公開講演会を開催しました

10月29日(土) **京都学講座** 〈復活・躍進する京都〉

12月 3日(土) **公開講演会** 〈鎌倉幕府の実像に迫るー「鎌倉殿」をめぐる人々ー〉

コロナ禍により中断していた両講座を対面にて開催しました。
いずれも講演会後の座談会は YouTube チャンネルからご覧いただけます。



YouTubeチャンネル
「BASE花ここ」

京都市ふるさと納税を活用し、花園大学へご支援をお願いします

2023年4月より、京都市へふるさと納税をしていただくと、翌年度に寄付金額の一部が花園大学へ配分されることとなります。配分された助成金は、本学の地域連携等推進事業に活用させていただきます。花園大学へのご支援をよろしくお願いいたします。



京都市ふるさと
納税特設ページ

詳しくは、京都市ふるさと納税特設サイト
<https://furusato-kyoto.jp/usage/> をご覧ください。

STEP ① 京都市「ふるさと納税」受付サイトにアクセス

STEP ② 寄付の使い道として、「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進
～市内大学と協働！学生さんの挑戦を応援！～を選択

STEP ③ さらに、花園大学と協働！を選択してください

～ 祝 花園学園創立150周年 地域とのつながりをこれからも～

花園大学学園祭「京花祭」にお越しいただいた皆様、ご来場ありがとうございました。

昨年、一昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止措置により中止となりましたが、今年度は10月22日（土）、23日（日）に実施することが出来ました。「3年ぶり」ということで不安も少なからずありましたが、多くの方々からご支援をいただき、無事に終えることができ、安堵しております。

今年度の京花祭は、「祝 花園学園創立150周年 地域とのつながりをこれからも」をテーマに掲げ、企画制作に取り組みました。

露店企画では「花大グルメフェス」を開催し、花園大学周辺の飲食店に出店をしていただき、大盛況でした。学生露店に関しては、出店団体数が前回と比較して非常に少なかったにも関わらず、メニューの種類も豊富で、どの団体も非常に盛り上がっていたと感じます。

ゲスト部門では、1日目は「チグハグ」で若者に人気のTHE SUPER FRUITさん、世が世なら!!!さん。2日目はコレサワさん・大原ゆい子さん・mihoro*さんの計5組を招待し、ステージを盛り上げていただきました。

トークショーでは声優の柿原徹也さんを招待し、質問コーナーや、サインプレゼントを行い、来場者の方々には楽しんでいただけたと思います。

学生発表・企画・展示部門では、新体操の演舞、吹奏楽部の演奏、音楽同好会の演奏、手話サークルの発表、写真部・幻想工房・茶道部の展示、テニス部や弓道部の体験イベントがありました。

他にも、人権教育センターの「映画鑑賞」、地域連携教育センターの「カエルキャラバン」など、職員の方々も企画に参加していただき、より賑やかになっていました。

今年度の京花祭は、約4ヶ月の準備期間と非常に短く、実行委員数も不足している中で、企画の考案から当日の運営までやり切れたことは、私自身大変誇りに思っています。

最後になりましたが、京花祭開催にあたりご協力をいただいた学生団体、教職員の皆様、協賛企業様、地域住民の皆様に、心より感謝申し上げます。

(京花祭実行委員会 委員長 舛木駿介)



花園大学学園祭「京花祭」にお越しいただいた皆様、ご来場ありがとうございました。

ようやく3年ぶりに対面での学園祭の開催が叶い、2日間で1489名の方にご来場いただきました。今の実行委員に先輩方の引継ぎも無い中、ゼロベースのスタートとなった6月。約4ヶ月の短い準備期間で、あらゆる困難にも試行錯誤で乗り越えながら、最後まで頑張った実行委員の皆さんに拍手を送りたいと思います。最後になりましたが、京花祭開催にあたりご協力いただいた花園大学同窓会、花園大学後援会、教職員の方々、学生の皆さん、関係者の方々に心より感謝申し上げます。

(学生支援課 大森瑠璃)



衣川 賢次 様 元文学部教養教育課程 特任教授

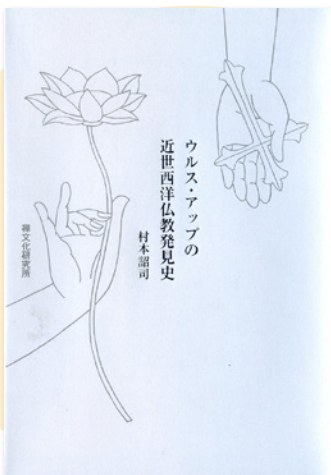
2022年3月に特任教授を退職し、最後の一年間に準備した博士論文「『祖堂集』の文献学的研究」(本論全五章、附録5篇、A4版370頁)を五月に京都大学へ提出し、9月2日に口頭試問、26日に学位授与式がありました。禅宗灯史『祖堂集』は『景德伝灯録』とならぶ禅宗史の重要典籍で、柳田聖山先生が研究の先鞭をつけられたことで知られていますが、その成立過程、本文の特徴、禅宗史上の位置づけなど、のこされた問題を論じて解決したものです。これまでに『祖堂集』の本文校訂、訳注と成立論、言語論、禅思想に関する論文を、数えてみれば20本も書いていたのを、この機会にまとめました。柳田先生は『臨濟録』と『祖堂集』の研究を生涯のお仕事とされたのですが、端なくもこれを引き継ぐことになるとは、40年前に花園大学に赴任した時には思いもしなかったことです。相撲界では「恩は土俵で返す」と言います。わたしもこれに倣って、「ごつつぁんです!!」

片山 俊枝 様 1980年文学部国文学科卒業

2022年8年月26日～28日、京都文化博物館6階の和室全室(70畳・70畳・50畳)で開催されました。教授・卒業生・現役学生合わせ、約150名の出品となり、作品を見るだけでも約40分は掛かる程で、連日コロナ禍にも拘らず、のべ500人余りの方々に来場いただきました。会場のあちこちでは、卒業以来20～50年ぶりに再会…作品の前で同窓会が開かれていました。2年前の『花園大学OB書道展』以来、花園大学に関わるすべての方を対象に今回の開催となりました。

書道コースが誕生したころから活動されている方や元教授の先生方の逸話等聞かせていただき、歴史を感じました。また、各方面でご活躍されている卒業生の作品が展示され、圧巻でした。

この展覧会を通して、「花園大学で書を学びたい!」と思う人が増えることを願っています。今後も開催予定ですので、ご協力をお願いします。



本学関係者 書籍案内

ウルス・アップの近世西洋仏教発見史

著者: 村本 詔司

元花園大学教授コンビの友情から生まれた労作

それは、フランシスコ・ザビエルから始まった。
西洋人はいつ、どのようにして仏教を「発見」したのか?
その「発見」はヨーロッパにどのような衝撃をもたらしたのか?
ウルス・アップによる最新研究を紹介しながらその謎に迫る。

部活紹介

ラグビー部

2022年度もコロナの影響で春のチャレンジリーグが中止となり、オープン戦も2試合しかできず苦しいスタートとなりました。夏合宿は3年ぶりに行うことができましたが、けが人が多いことから実践練習の調整が難しく、また、合宿中にできるだけ多くの試合を組む予定が2試合しかできずに終わってしまいました。



秋季リーグ戦では、コロナの影響で若干棄権試合もありましたが、他大学に比べ部員数も少なく、けが人もいるなかで、選手たちはリーグ戦の7試合を戦い抜いてくれました。結果は1次リーグ1勝4敗の5位通過となり、2次リーグは下部リーグ入れ替え戦(順位決定戦)に回ることになりましたが、順位決定戦で2連勝し、下部リーグトップで終え、4位のチームを相手に入れ替え戦を行うことになりました。この入れ替え戦に無事勝利し、Bリーグ9位という結果でリーグ戦を終えました。

次年度はしっかり調整し、上位を目指して頑張っていきたいと思います。

硬式野球部

2022年4月硬式野球部は、1回生41名を迎え60名超えの部員数で春季リーグをスタートしました。春季リーグは前季で勝ち点を落とすたびわこ成蹊スポーツ大学に勝利するなど7勝7敗0分で3位でした。

6月末で東監督が退任されたため、7月からは奥本ヘッドコーチを監督代行として秋季リーグを戦いました。1回生の活躍が光り、7季連続優勝の佛教大学に1勝しました。また今秋季リーグ優勝の京都先端科学大学に2勝し勝ち点をあげることが出来ました。結果は6勝7敗0分で4位でした。4位ながらも新人賞や打撃10傑に3人が入る等個々の活躍がみられました。今後は秋季リーグで勝ちきれなかった、チームとしての弱点の強化に努めます。

また、今までにはなかった新しい取り組みも始めています。11月には外部トレーニングコーチをお招きして専門的なトレーニングの導入により今まで以上の体づくりを目指します。12月には管理栄養士をお迎えし、栄養について学びました。食事とプレーの関係について考える良い機会となりました。また今季流行すると言われるインフルエンザワクチン接種を硬式野球部として行い、体調万全で練習と春季キャンプやリーグ戦に臨みます。

12月24日、25日には来春入学が決まった合格者を対象とした「硬式野球部合格者説明会」を開催しました。4月には33名が入部予定です。3月には3年ぶりに春季キャンプを開催します。この紙面が発行される頃には春季キャンプを無事終了し、個人とチームそれぞれ秋季リーグよりも力がついているはずです。

今後も野球のみならず、勉強、礼儀にも力を入れリーグ優勝を目標に精進してまいります。皆様の応援をよろしくお願い致します。



剣道部

花園大学剣道部は1970（昭和45）年に創部された、本学の中でも歴史のあるクラブです。今年で53年目の活動になりますが、2003（平成15）年からは強化クラブに指定されました。

本学の建学の精神は「禅的仏教精神による人格の陶冶」ですが、剣道部の理念も、方向性は全く同じであり「剣の理法の修練による、人間形成の道」を目指しております。「剣禅一如」は沢庵和尚（たくあんおしょう）が説いた「剣の道の境地」のことですが、剣の道はさながら「禅における無念無想」の境地と同じようなものであると説明しています。沢庵和尚は剣豪としても知られ、柳生但馬守の師としても有名です。

現在の部員は、男女合わせて総勢25人と少人数ですが精鋭を揃えて、競技成績も優秀です。直近の大会では、男子が京滋学生新人戦において準優勝、女子が関西予選において優勝候補を撃破して全日本学生大会にも進出しております。

今後、ますます精進いたしますので、応援のほどよろしくお願いいたします。



新体操部

新体操部は4回生8名、3回生9名、2回生2名、1回生3名の計 22名 で活動しています。今年で創部32年目です。

2022年はコロナも緩和され、多くの試合が有観客で開催されました。今年度は男女ともに大幅なルール変更があり、そんな中で行われた8月の全日本学生新体操選手権では男子個人で4回生の大村光星選手が優勝、3回生の尾上達哉選手が準優勝という成績を残せました。女子団体は0.1という僅差でJAPAN出場を逃してしまいましたが、終わった瞬間、「来年こそは！」と選手からの意気込みに成長を感じることができました。

12月には3年ぶりに花園大学にて発表会を開催させていただきました。卒業生、保護者、地域の皆様に見守られ、無事4回生8名が引退することができました。本当にいつもご支援ご協力いただきありがとうございます。

2023年は男女共に団体にJAPAN出場、個人優勝を目指し一層努力させていただきます。

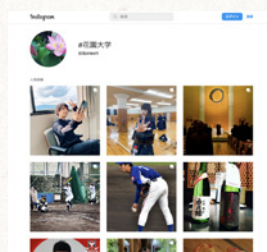


ホームページ、フェイスブック、ツイッター、インスタグラムでも大学の情報を発信しております。

花園大学同窓会
ホームページ



花園大学
公式ホームページ



花園大学 同窓会通信106号 2023.3発行

〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町 8-1

同窓会事務局

電話 (075) 279-3630 (直)

F A X (075) 823-2412 (直)

E-mail dousou-h@hanazono.ac.jp